

北名古屋市市民協働推進事業補助金採択事業自己評価シート

事業名 認知症予防3A(あかるく、あたまを使って、あきらめない)事業

団体名 認知症予防ネット北名古屋

項 目	着目点	自己評価	自己評価コメント
公益性 公共性	・事業の紹介を積極的に行い、市民に開かれた事業でしたか	◎	広報、コミュニティ新聞、施設への掲示等しました市内4ヶ所（旧西春2ヶ所、旧師勝2ヶ所）市民に広く伝えました。
	・事業を実施することにより、不特定多数の市民の利益増進につながりましたか	◎	講演会等多くの方に広く伝えました。教室に参加すれば認知症が予防できたり先送りができるということが日々の生活の安心感につながります。（実証されています）
	・事業を通じて市民の理解や参加、協力が得られましたか	◎	スタッフ及びボランティアとして参加される方々は自分が「予備軍」という認識があり積極的に手伝ってくれています。仲間と一緒に年を重ねて行くことは老後の不安解消になります。
実現性 計画性	・当初の事業計画、予算計画は適切でしたか	◎	「拡げたい」という目的があり、計画・実行して検討してを繰り返しました。予算的には広く市民の為に講演会等実行しました。
	・事業を確実に実施するために適切な体制でしたか	◎	目的が明確でもその為にはどうすれば良いのか先を考える体制で進めました。
先駆性 協働性	・新たな成果や仕組みを生み出すなどの波及効果がありましたか	◎	高齢福祉課と連携し、この4月から「スリーA教室」が開催されています。
	・他団体とうまく協働し、事業を進めることができましたか	△	一年目でスタッフにゆとりが無くて、他団体との協働はできませんでした。高齢者のみならず幅広い世代とのかかわりがあれば認知症の理解も進みサブテーマの「優しさのシャワー」がふりそそぐ地域になると思います。
	・行政や団体が単独で行うより、効果をあげることができましたか	△	交流の場では知らない活動も多く興味深く、たくさんエールの交換ができました。
継続性 自立性	・事業を継続するための計画、工夫、協力体制ができていますか	◎	継続することは必然的な課題なので、さらなるスタッフ、ボランティアの研鑽をしていきます。高齢福祉課と連携しつつ継続していきます。
	・自己資金の確保に努めていますか	—	該当しない。 事業内容から収入はあり得ないので無駄に使わない工夫と最大の効果が上がるよう努力しました。
事業効果 有効性	・費用対効果を考え、経費削減などの工夫をしましたか	◎	「スリーA教室」ではおよそ20種のゲームをします。手作り不要品利用等しています。必須アイテムは長期使用に耐えられるようつくりました。
	・当初の目標、目的どおりの成果が得られましたか	◎	一年目で必死に活動している状況のまま高齢福祉課の事業になったので、今後はより高い目標を掲げ市民生活に貢献します。※市内の集会場等で気軽に「スリーA教室」が開催され「優しさのシャワー」があふれる北名古屋市になれば…※

自己評価：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全然できなかった —わからない 又は該当しない